

埼玉県 本庄PF研究会

埼玉式GAP



○ GAP手法取組の概要（取組開始時期、品目）

主要10品目（きゅうり、やまといも、ブロッコリー等）について埼玉式GAPを導入した。

作物毎にチェックリストの作成・実証を行うとともに、導入モデル農家8戸に出荷調整施設の衛生管理を目的とし、出荷調整施設の水質分析を行い、農薬保管庫を導入、農薬の在庫管理表を作成した。

また、高圧洗浄機、乾湿両用掃除機、使用済み農薬瓶袋の散逸を防止するための一時保存箱の導入設置を行った。

○ GAP手法導入のきっかけ、経緯

収穫・調整時の衛生管理等に不十分な点が見られ、会員間の個人差が大きかったことから、GAP手法導入の必要性を認識した。

○ GAP手法導入に関し、工夫した点等

（財）日本食品分析センターから講師を招き、研修会を開催するなど、導入に向けた情報の収集等に努めた。

○ GAP手法導入によるプラスの効果等

当会内の安全・安心に対する意識が向上した。
出荷調整施設の整理整頓・衛生管理に対する意識が向上した。

○実践者からのコメント

GAPに取り組むことにより、今まで以上に衛生管理に対する意識が高まりました。

また、GAPを実践することにより、生産履歴情報の公開という手段で農産物の安全性をお客様にアピールすることができます。

